



コード（分野）	24201（8.福祉・人権・国際理解）
メニュー名	包括的性教育(もっと幸せに生きる為の知識と教養)
校名(学年)	豊郷町立日栄小学校 6年2組 18名
講師・支援者等	0歳からの性教育 プチトマト 高野 真由様
学 習 名	「おへその教室」
教 科 等	保健
実 施 日	令和6年9月13日（金）2組 9:15～10:15 1組 10:30～11:30

《授業の流れ》

テーマ「おへその教室」プレゼン形式

1 包括的性教育とは

自分を知ること＝自分の考えを持つということ

- ① 世界を平和につなげる。
- ② 誰もがもっと幸せに生きる為の知識と教養を得る。



2 おへそクイズ

鳥× 恐竜×（←卵から） ゾウ○ 犬○（←お母さんから…今、一緒に住んでいないとしても）

3 体の赤信号について

1 プライベートゾーンとは

口、胸、性器、お尻

（ルール）

- ・ 見ない見せない
- ・ 触らない触らせない
- ・ 写真を撮らない撮らせない
- ・ 写真をネット上にあげないあげさせない

* 自分の体を触るのは自由

プライベートゾーンは命とつながっているところであって命を預けることと同じ意味を持つ。

2 わからないとき

「聞けばいい！！」＝同意を取る（CONSENT）；決めるのは自分

3 「同意」の動画を視聴

NO「いや・助けて」→GO「その場から離れる」

→TELL「相談する」



4 人の赤信号を理解する

体の自己決定、心の自己決定

…わがままの「いや」とプライベートゾーンの「いや」とは違う。

5 「いや」とははっきり言えるかな？…言えない時の方が多くからとても大切。

6 私の赤信号…自分で考えてみて。みんなと同じではないよ。

4 目には見えない透明バリア（動画視聴）

- ・心の境界線、体の境界線は、人それぞれ違う。モノやお金にも境界線がある。
- ・バリアのピンチは同意なし…「いや」と言えない言いにくい、しかし言っている。
- ・自分の境界線を引くことは、自分が心地よく生きていくコツ。

<親子でも境界線がある実験>

子→・・・近づいていくと・・・←親 互いの距離感がわかる。



5 自分の人生は自分で決めてよい

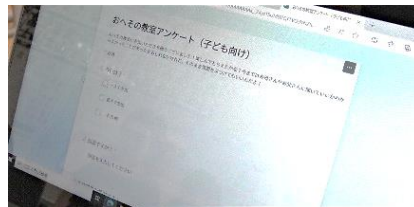
- ・安心、自信、自由の環境を整えることの大切さ
- ・脳みそは28歳でやっと完成すると言われる。→未熟だからわからないことがあるのは当たり前、だから信頼できる大人に相談することは大切。自ら経験することも大切。

6 精子と卵子の出逢い方

- ・性器の扱い（衛生面）
- ・sexの意味を生物学的に淡々と説明。…「なるほど！！」

7 感想（アンケート）

- ・各自のタブレットより



<感想等>

児童・保護者

<児童>

- ・自分の思いを伝えることと相手の思いを知ることが大切だと分かった。
- ・「境界線」という言葉を初めて知った。
- ・もっと自分のことを知りたいと思った。
- ・プライベートゾーンのルールを知ることができた。
- ・「No!」とはっきり言える人になりたいと思った。

<保護者>

- ・親しみやすい雰囲気話してくださって、とても聞きやすかった。
- ・他の講座もぜひ聞いてみたいと思った。
- ・6年生にもわかりやすくてよかった。
- ・親子であっても話しやすい距離感などについて考えていきたい。

学 校

- ・ 保護者参観に合わせたことで、親子で話を聞いてもらえてよかった。
- ・ 一緒に聞いてほしい保護者へ自然にアプローチできたと思う。
- ・ 子どもたちの反応をうまく拾っていただき、さすがだと感じた。

支援者・講師

- ・ 個人個人、違った反応を見せてくれたと思います。中には途中、耳をふさぐようなしぐさを見せた児童もいましたが、興味がある表れに見えました。その後は集中して耳を傾けてくれたと思います。
- ・ 学校生活の中で、友達同士の距離感でトラブルが起こることもあると講座後に学校側から聞きました。そのようなケースがある中で、今後距離感について考え、また話すきっかけになれたと思います。

